

2024（令和6）年さけます来遊状況（第3報：10/31現在）

4 サケ年齢組成と体サイズ

国立研究開発法人水産研究・教育機構
水産資源研究所 さけます部門 資源増殖部

- 北海道の年齢別来遊数では、3年魚（2021年級）、4年魚（2020年級）および5年魚（2019年級）は前年および平年を下回る
- 北海道太平洋側では4年魚が平年の29%と1994（平成6）年以降で3番目に少ない
- 北海道日本海側では5年魚が平年の42%と1994（平成6）年以降で4番目に少ない
- 北海道のサケの平均重量は2.97kgで前年を下回り、1994年以降で2番目に小さい

*1：平年とは、1994（平成6）～2023（令和5）年の平均値

・サケの年齢組成（北海道）

北海道の河川に回帰したサケの年齢査定途中経過をもとに、10月31日現在における年齢別来遊数を推定したところ、年齢組成では、4年魚（2020年級）が全体の72%を占めて最も多く、次いで5年魚（2019年級）が24%、3年魚（2021年級）が4%となりました。前年同期との比較では、3年魚は50%、4年魚は77%、5年魚は77%と前年を下回っています（図1）。平年同期との比較では、3年魚は37%、4年魚は59%、5年魚は26%となっており、3年魚と5年魚は1994（平成6）年以降で4番目に少ない値、4年魚は5番目に少ない値となっています。

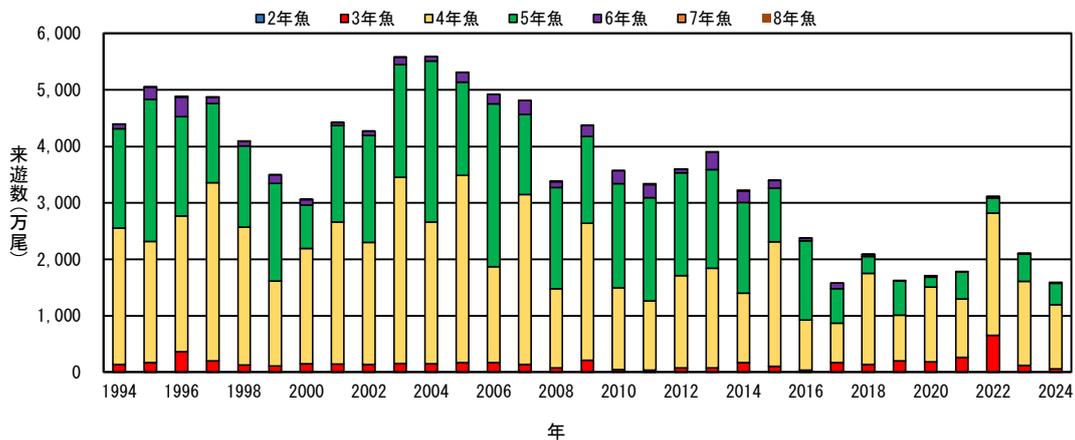


図1. 10月31日現在のサケ年齢別来遊数（北海道）。

年級群（生まれ年）ごとの来遊数をみると、今年の4年魚である2020年級を4年魚までの来遊数（2～4年魚の来遊数）で比べた場合、1992～2019年級の平均の61%の水準となっています。また、今年の5年魚である2019年級の5年魚までの来遊数（2～5年魚の来遊数）は、1992～2018年級の平均の73%の水準となっています（図2）。

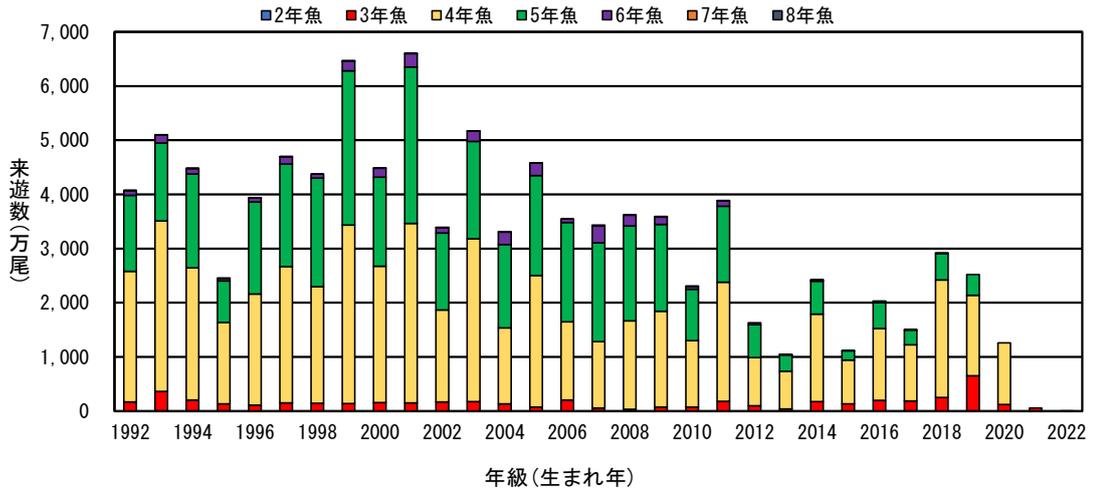


図2. 10月31日現在のサケ年級群(生まれ年)別来遊数(北海道).

地域別にみると、北海道太平洋側(根室海区～えりも以西海区)では、4年魚(2020年級)が全体の73%を占めて最も多く、次いで5年魚(2019年級)が19%、3年魚(2021年級)が8%となっています。3年魚の来遊数は前年同期の75%、平年同期の45%、4年魚は前年同期の94%、平年同期の29%、5年魚は前年同期の111%、平年同期の10%となっており、4年魚は1994(平成6)年以降で3番目に少ない値となっています(図3)。

北海道日本海側(オホーツク海区および日本海区)では、4年魚(2020年級)が全体の71%を占めて最も多く、次いで5年魚(2019年級)が26%、3年魚(2021年級)が2%となっています。3年魚の来遊数は前年同期の37%、平年同期の31%、4年魚は前年同期の72%、平年同期の89%、5年魚は前年同期の72%、平年同期の42%となっており、5年魚は1994(平成6)年以降で4番目に少ない値となっています(図4)。

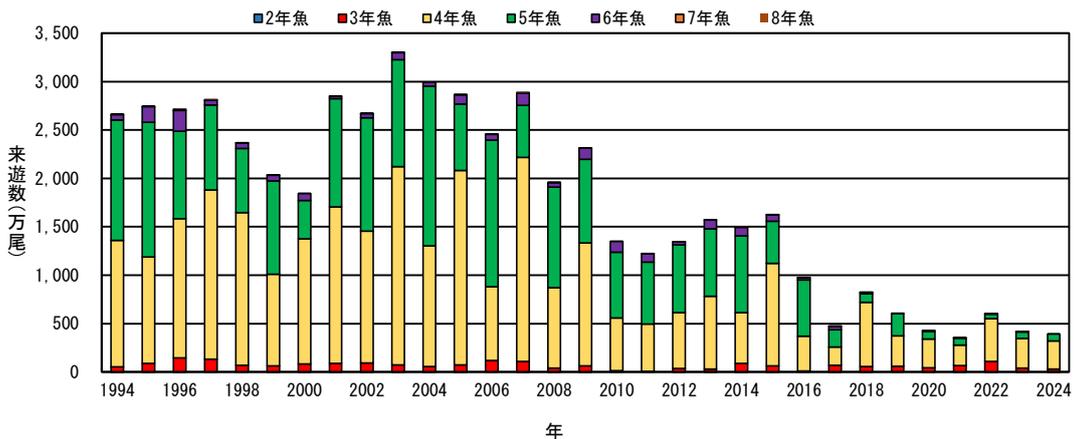


図3. 10月31日現在のサケ年齢別来遊数(北海道太平洋).

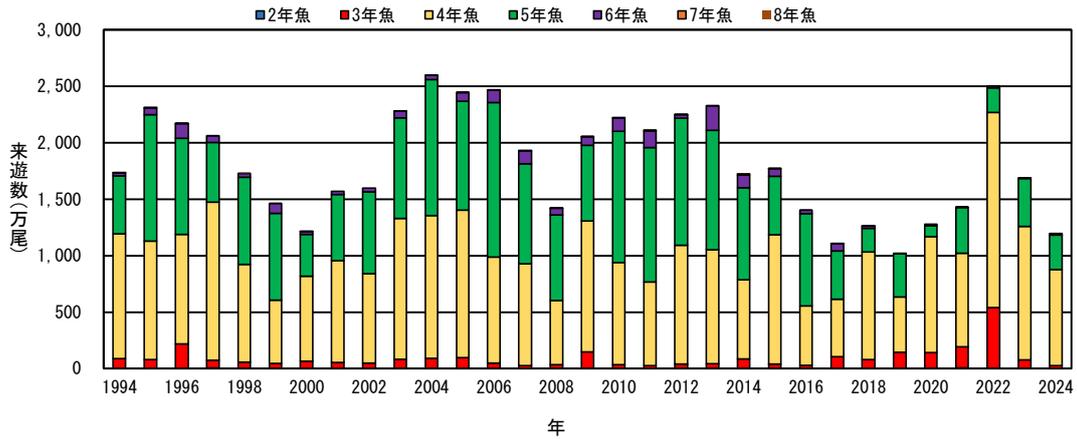


図4. 10月31日現在のサケ年齢別来遊数（北海道日本海）.

・サケの体サイズ

北海道における10月31日現在のサケ1尾当たりの平均重量（漁獲数と漁獲重量から算出）は2.97kgであり、前年同期の平均重量3.03kgを下回りました。

また、10月31日現在の平均重量は1994（平成6）年以降で2番目に小さい値となっています（図5）。

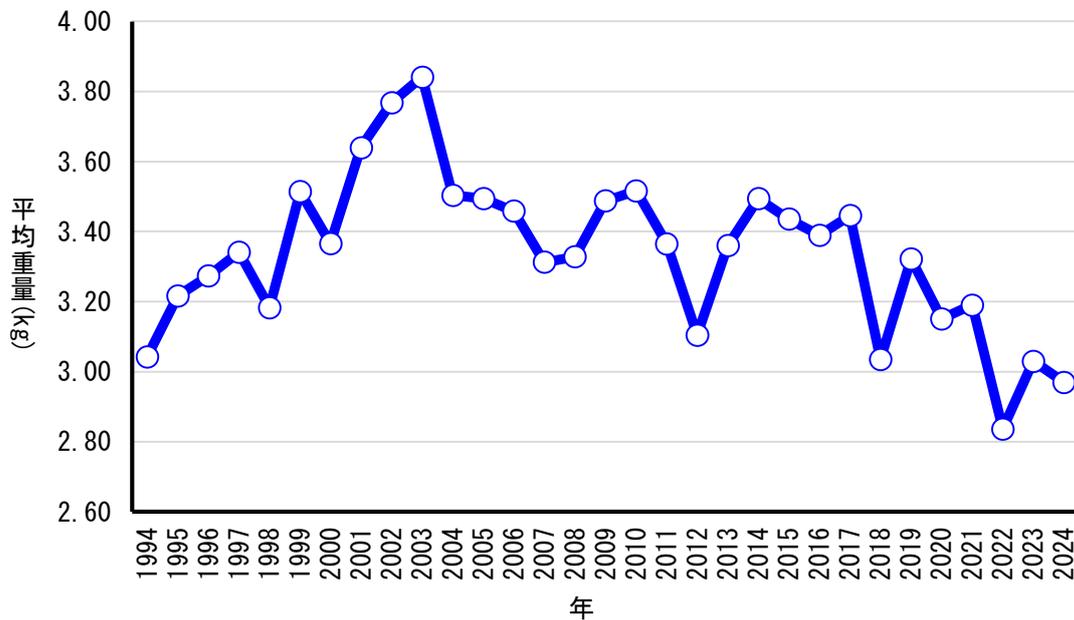


図5. 10月31日現在のサケ平均重量（北海道）.